



ごみの減量化とリサイクル 捨てない生活

近代の主要なごみ処理方法である「焼却と埋め立て」は明治時代に始まりました。その方法は、当時流行したコレラや腸チフスを撲滅することが目的でした。その後、科学技術の進歩と経済の発展は、私たちの生活を快適で便利にしましたが、同時に、この生活は、限りある資源の消費を伴います。

近年、多種多様な素材で商品が大量に生産され、消費されています。商品の過剰な包装や使い捨て商品の使用などは、大量のごみを発生させる原因となり、ごみ処理にかかる経費も年々、増大しています。また、ごみの質も明治のものとは異なります。不用意な焼却は、ダイオキシンなど大気汚染の原因ともなり、大量の埋め立ては、最終処分地の確保を限界に近づけています。今、これらの課題に対処し、さらに、限りある資源を有効に活用するために、資源のリサイクルというごみ処理方法への転換が求められています。

本市では、本格的なごみの減量化とリサイクルに取り組むため、平成8年度から市民・自治会の協力を得て、6分別収集を実施しています。分別収集によるリサイクルの効果は、同年のエコプラザの開設で高まりました。この施設は、再生するためにびん・缶を選別するだけでなく、資源有効活用の必要性などを啓発し、実践するリサイクル活動の拠点です。

4月には、不燃物破砕選別処理施設が稼働し、燃えないごみを細かく破砕選別することでごみの減量化と再資源化を図ります。これにより、埋め立てられるごみは6分別収集以前と比べ約10分の1に減量されます。また、ごみ減量化の根本的解決策は、ごみを作らない生活の中にあります。そのためには、再利用できるびんなどの適切な返却や、紙の集団資源回収を利用するなど、私たちの心がけや小さな工夫が大切になります。

「ごみは資源」との認識のもと、リサイクルをまちづくりの一環としてとらえ、市民参加・事業者参加を一層促すことにより、資源循環型社会の形成を目指していきたいと考えています。